



韓国

NCB 海外レポート

KOREA NOW!!

～地域の魅力を再発見～

◇ はじめに

- ・日本と同様、韓国においても地方の人口減少や少子高齢化、大都市への人口流出等により、地方経済の衰退が危惧されていますが、その一方で、自治体と住民らによるユニークな取り組みにより活気を生み出すことに成功した地方都市があります。
- ・今回は、韓国第2の都市、釜山市の西部に所在する「甘川文化村」^{カムチョンムナムウル}についてご紹介します。

◇ 甘川文化村の歴史

- ・甘川文化村は、釜山市の中心部から車で20分ほどの距離に位置する小さな集落です。1950年代、朝鮮戦争の影響を受けた避難民らが押し寄せ、土地を求めて人々が居住していなかった山肌を開墾し、家を密集して建てた集落がその始まりです。
- ・住民らは長きにわたり近くの産業団地で働きましたが、交通の不便さや産業団地の衰退、住居の老朽化等により人口が急減しました。こうした中、2007年に再開発が推進されようとしたものの、既存の建物を取り壊す大規模再開発は住民の反対等により、立ち消えとなってしまっていました。

◇ 「釜山のマチュピチュ」

- ・こうした中、2009年には、韓国政府及び自治体が主導し、保存型の再開発である芸術振興・地域活性化プロジェクトに選定され、地元の芸術家や住民らの積極的な参画のもと、村の歴史的価値や特色ある景観を活かした様々な整備が実施されました。
- ・この結果、山の斜面に建ち並ぶカラフルな住居や、迷路のように入り組んだ路地に設置されたオブジェや壁画、様々な体験が可能な工房等、村中が多様なアートに彩られた様子は「釜山のマチュピチュ」と呼ばれるようになり、コロナ禍以前の2019年には国内外から年間308万人（甘川文化村ホームページより）が訪れる代表的な観光スポットの一つとして生まれ変わりました。
- ・以前は村の住民や近隣の産業団地の労働者向けの食堂等が多く所在していましたが、現在は村が観光客向けのカフェや飲食店、ギフトショップ等を運営し、これらの店舗での売り上げを住民の福祉の向上に充当しています。
- ・プロジェクトへの参加を通じ、住民らは地域に対する誇りを抱き、また、観光客の流入に伴って地域は活気を取り戻しました。こうした甘川文化村の変化は韓国国内においても、地方都市再生の成功事例の一つとして挙げられています。



【甘川文化村の風景】

◇ おわりに

- ・今回ご紹介した甘川文化村に加え、韓国には水原市の華城行宮や江陵市のコーヒー通りなど、地域の魅力を活用した都市再生を通じ、国内外から人気を集めているエリアがあります。
- ・韓国観光と言えば多くの方がソウルや釜山の都市部でのショッピングや食事などをイメージされますが、時にはこうした魅力あふれる地方都市へも足を運んでみてはいかがでしょうか。

2025年4月作成

西日本シティ銀行国際部 洪承元(ホン・スンウォン)